

その他の乗物を起因物とする交通事故（その他）の死亡災害発生事例（1999-2020年）

発生年	発生日	時間	死傷災害発生事例	小業種コード	労働者規模
1999	1	10 ～ 11	カレイ刺網漁を終え港に帰港途中、横波を受け転覆し2名が海に投げ出され、1名が海底より発見されたが残り1名は行方不明。	70201	1～9
1999	3	14 ～ 15	小型飛行機に機長のほかにエンジンのデータ収集のため2名が乗り、飛行場を飛び立ったところエンジンが不調のため不時着すると連絡後消息不明となり、その後全員が遺体で収容された。	120109	1000 ～ 9999
1999	3	14 ～ 15	小型飛行機に機長のほかにエンジンのデータ収集のため2名が乗り、飛行場を飛び立ったところエンジンが不調のため不時着すると連絡後消息不明となり、その後全員が遺体で収容された。	120109	1000 ～ 9999
1999	3	14 ～ 15	小型飛行機に機長のほかにエンジンのデータ収集のため2名が乗り、飛行場を飛び立ったところエンジンが不調のため不時着すると連絡後消息不明となり、その後全員が遺体で収容された。	120109	30～ 49
1999	3	13 ～ 14	セスナ機で山腹に墜落した。	40103	10～ 29
2000	11	8 ～ 9	ヘリコプター格納庫で燃料を補給して航空イベントに参加するため離陸し、水平距離で約500mほど飛行したところで突然失速し近くのえん堤に墜落し、パイロットと同乗の営業職員が死亡した。	120109	10～ 29
2000	11	8 ～ 9	ヘリコプター格納庫で燃料を補給して航空イベントに参加するため離陸し、水平距離で約500mほど飛行したところで突然失速し近くのえん堤に墜落し、パイロットと同乗の営業職員が死亡した。	120109	10～ 29
		14	会社所有ヘリコプターに6名搭乗し、2度目の飛行性能試験(ロータ失速特性		1000

2000	11	～	研究)のため高度4000フィートを飛行中、破裂音がした後にテールロータが	11509	～
	15		故障して左旋回が不能となり、徐々に高度が下り墜落した。		9999
2001	3	13	顧客の操縦するパイパー式単発飛行機に同乗して飛行中、山の斜面に衝突し	40103	50～
		～	た。		99
		14			
2001	5	11	上空約200mで訓練飛行中のヘリコプターとセスナ機が接触して、2機とも墜	40103	300
		～	落し、搭乗していた6名全員が死亡した。(6名のうち他は訓練生労働者は3		～
		12	名)		499
2001	5	11	上空約200mで訓練飛行中のヘリコプターとセスナ機が接触して、2機とも墜	40103	300
		～	落し、搭乗していた6名全員が死亡した。(6名のうち他は訓練生労働者は3		～
		12	名)		499
2001	5	11	上空約200mで訓練飛行中のヘリコプターとセスナ機が接触して、2機とも墜	40103	300
		～	落し、搭乗していた6名全員が死亡した。(6名のうち他は訓練生労働者は3		～
		12	名)		499
2001	8	9	セスナ機で航空写真を撮影するため、自営カメラマン2名を乗せて飛行中、	40103	1～9
		～	何らかのトラブルにより水田に墜落して機体が炎上し3名全員が死亡した。		
		10			
2002	3	14	航空機の教官が訓練生と二人乗り単発プロペラ機で離陸し、きりもみ状の飛	120109	10～
		～	行を体験する「スピン訓練」を実施していて、防風林内に水平状態で墜落し		29
		15	た。		
2002	1	10	港の改修工事において、浚渫した土砂を沖合10kmの捨場に運搬するた	30111	50～
		～	め、土砂運搬船を引船で曳航中に土砂運搬船が転覆した。		99
		11			
2002	1	1	スケソウダラ刺し網漁船が僚船14隻とともに漁港を出港して操業中、時化が	70201	1～9
		～	激しくなって一隻が転覆し、3人の乗組員が行方不明となった。		
		2			
		1	スケソウダラ刺し網漁船が僚船14隻とともに漁港を出港して操業中、時化が		

2002	1	1 2	激しくなって一隻が転覆し、3人の乗組員が行方不明となった。	70201	1～9
2002	1	1 2	スケソウダラ刺し網漁船が僚船14隻とともに漁港を出港して操業中、時化が激しくなって一隻が転覆し、3人の乗組員が行方不明となった。	70201	1～9
2002	7	15 16	個人所有のヘリコプターのエンジン始動が悪いとの連絡を受け2人で故障探求をしたところ、バッテリーが弱いことが判明したのでバッテリー交換のため、整備工場へヘリコプターで飛び着陸直前に墜落炎上し2人が死亡した。	40103	30～ 49
2002	3	7 8	台船を曳航するため、汽船に乗り台船に向かう途中で後方からきた船に追突され、汽船が沈没して乗船していた2名が溺死した。	170209	1～9
2002	3	7 8	台船を曳航するため、汽船に乗り台船に向かう途中で後方からきた船に追突され、汽船が沈没して乗船していた2名が溺死した。	11501	1～9
2002	8	17 18	ハバロフスク地方にある蟹加工工場へ蟹の検品作業を行うため、ハバロフスク空港から旅客機に乗ってアヤン空港に着陸直前に、パイロットが濃霧で高度を誤まって空港近くの岸壁に激突し、乗員（3人）、乗客（14人）全員が死亡した。	170209	1～9
2003	3	10 11	米国製双発プロペラ機の整備状況を確認するため、1時間45分の予定で飛行場を離陸しテストフライトを行っていたところ、離陸後約20分後に山林に墜落した。	40103	1～9
2003	3	10 11	米国製双発プロペラ機の整備状況を確認するため、1時間45分の予定で飛行場を離陸しテストフライトを行っていたところ、離陸後約20分後に山林に墜落した。	40103	1～9
2003	9	10 11	飛行訓練のため、空港を離陸した小型飛行機が別の空港に着陸体勢に入ったときに、滑走路手前の南斜面に墜落し搭乗者3名が死亡した。	120109	300 ～ 499

2003	9	10 ～ 11	飛行訓練のため、空港を離陸した小型飛行機が別の空港に着陸体勢に入ったときに、滑走路手前の南斜面に墜落し搭乗者3名が死亡した。	120109	～ 499
2004	8	6 ～ 7	曳航される小型船舶で、作業箇所付近まで移動中、横波により当該船舶が転覆した。	70201	10～ 29
2004	6	11 ～ 12	ヘリコプターが空港に着陸する際に同空港敷地内に墜落した。	40103	10～ 29
2004	1	10 ～ 11	被災者3名が小型飛行機に乗り込み、航空記念写真を撮影した後、次の撮影場所に向かおうと上空を旋回中に失速し、電線を切断しながら墜落し地上に激突した。	40103	30～ 49
2004	1	10 ～ 11	被災者3名が小型飛行機に乗り込み、航空記念写真を撮影した後、次の撮影場所に向かおうと上空を旋回中に失速し、電線を切断しながら墜落し地上に激突した。	40103	30～ 49
2004	1	10 ～ 11	被災者3名が小型飛行機に乗り込み、航空記念写真を撮影した後、次の撮影場所に向かおうと上空を旋回中に失速し、電線を切断しながら墜落し地上に激突した。	170209	1～9
2004	3	9 ～ 10	ヘリコプターに搭乗し、上空からカメラ取材していたところ、ヘリコプターが地面からの高さ150mの架空電路（77000V）の1本に接触し、機体の一部を損壊し、バランスを失って墜落した。	11101	100 ～ 299
2004	3	9 ～ 10	ヘリコプターに搭乗し、上空からカメラ取材していたところ、ヘリコプターが地面からの高さ150mの架空電路（77000V）の1本に接触し、機体の一部を損壊し、バランスを失って墜落した。	100101	30～ 49
2004	3	9 ～ 10	国道で発生した道路交通事故を上空から取材中のヘリコプターが、送電線に接触し約150m墜落した。	40103	1～9

2004	3	9 ～ 10	国道で発生した道路交通事故を上空から取材中のヘリコプターが、送電線に接触し約150m墜落した。	40103	1～9
2004	12	21 ～ 22	ヘリコプターによる遊覧飛行を終了し空港へ帰る途中に海の沖合に墜落した。	40103	10～ 29
2004	12	21 ～ 22	ヘリコプターによる遊覧飛行を終了し空港へ帰る途中に海の沖合に墜落した。	40103	10～ 29
2004	12	21 ～ 22	ヘリコプターによる遊覧飛行を終了し空港へ帰る途中に海の沖合に墜落した。	40103	10～ 29
2004	1	14 ～ 15	養殖いかだで網の手入れを終え帰港中、漁船と衝突後転覆し、海に落ちた。	70209	1～9
2004	1	14 ～ 15	養殖いかだで網の手入れを終え帰港中、漁船と衝突後転覆し、海に落ちた。	70209	1～9
2005	10	11 ～ 12	漁船に乗船して操業中、魚が入った網を手繰り寄せていたときに、網の重さで船が傾いたため、網を切り、船を前進させ反動で体制を立て直そうとしたところ、切った網がスクリューに巻き付き、そのまま転覆した。	70201	1～9
2005	4	7 ～ 8	小型動力漁船に乗ってエビ刺し網を回収後の帰路、船外機に絡んだロープを外そうとした際、うねりを受けて船長が海中へ転落し、航行不能となった当該漁船が、その後、岩場に衝突し転覆し、船上の被災者らが海中へ転落した。	70201	1～9
2006	3	0 ～	漁港南約1500m沖合で、作業を終え、帰港中であつた漁船Aと同様な作業を終えて帰港中だつた漁船Bが衝突し、Aの船首にいた被災者が海に転落	70201	1～9

		1	し、スクリューに巻き込まれた。		
2006	9	3 ～ 4	船長（事業主）と甲板員2名の計3名が夜から漁船でほっけのさし網漁を行い、漁を終え漁港に帰港途中、進路を誤って岸壁そばのテトラポットに衝突しその反動で甲板上にいた被災者が倒れ、揚網機の鋼材部分（高さ170cmの位置）に身体を打ちつけた。	70201	1～9
2006	7	5 ～ 6	被災者は漁を終え、帰港中、湾口付近において漁船（4.9t、船長と2名乗組み）が転覆。4時間後、船内から発見された。	70201	1～9
2007	5	8 ～ 9	湖内に係留していた作業連絡船（4.9t）を漁港に移動するため、タグボート（15t）により曳航作業中、曳航されていた連絡船が転覆し、連絡船に乗っていた2名の作業員が海に投げ出された。2名ともすぐに救出されたが1名は入院治療中に死亡した。	30111	100 ～ 299
2007	8	2 ～ 3	被災者は、サンマ棒受け網漁船（9.7t）に4名で乗船、出港し、漁場にてサンマ漁を開始した。翌日、時化のため漁を中断し、帰港する際、左舷から受けた高波により転覆し、乗組員が海に投げ出され、2名が救助されたが被災者と船長が行方不明となり、現在まで発見に至っていない。なお、救命胴衣は着用していなかった。	70201	1～9
2007	12	10 ～ 11	年1回実施する耐空検査を整備場で行うため、機長と整備士1名が同乗して飛行したところ、機体の方向を制御する装置の調子が悪くなり、不時着を試みようとしたが、ヘリポートの手前約500m地点の調整池に墜落した。機長が死亡、整備士が重傷を負った。	40409	50～ 99
2007	6	15 ～ 16	山の緑化作業として、ヘリコプターで樹木の種子と栄養剤を散布する作業を行っていた。ヘリコプターは臨時ヘリポートから離陸し、5分ほどで戻る予定だったが連絡が取れなくなったため捜索したところ、ヘリポートから北に約1.5km離れた山林に墜落しているのが発見された。	40103	30～ 49
2007	4	16 ～ 17	山小屋の改築計画があり、現場視察を終え、ヘリコプターに乗り離陸した直後、ヘリコプターが墜落した。（小屋から約50m地点）	30201	100 ～ 299

2007	10	15 ～ 16	航空機の操縦免許取得希望者を対象とする体験飛行で、2人乗りヘリコプターに希望者1名を乗せて同機を操縦していたところ、墜落した。	40103	10～ 29
2007	11	11 ～ 12	航空測量写真撮影を行っていた際、墜落した。	40103	1～9
2007	11	11 ～ 12	航空測量写真撮影を行っていた際、墜落した。	40103	1～9
2007	4	16 ～ 17	山小屋付近において、ヘリコプターによる人員輸送を実施中、悪天候により被災者操縦のヘリコプターが墜落した。	40103	10～ 29
2008	4	3 ～ 4	湾内で養殖ホタテ貝を採取した漁船（5.1t、船長は事業場の代表者）が、乗組員8名（代表者を含む）を乗せたまま行方不明となり、災害発生当日、海上で1名、後日、海底に沈んでいた船内で1名、海中で4名、海上で2名が発見され、それぞれ死亡が確認された。	70209	1～9
2008	4	3 ～ 4	湾内で養殖ホタテ貝を採取した漁船（5.1t、船長は事業場の代表者）が、乗組員8名（代表者を含む）を乗せたまま行方不明となり、災害発生当日、海上で1名、後日、海底に沈んでいた船内で1名、海中で4名、海上で2名が発見され、それぞれ死亡が確認された。	70209	1～9
2008	4	3 ～ 4	湾内で養殖ホタテ貝を採取した漁船（5.1t、船長は事業場の代表者）が、乗組員8名（代表者を含む）を乗せたまま行方不明となり、災害発生当日、海上で1名、後日、海底に沈んでいた船内で1名、海中で4名、海上で2名が発見され、それぞれ死亡が確認された。	70209	1～9
2008	4	3 ～ 4	湾内で養殖ホタテ貝を採取した漁船（5.1t、船長は事業場の代表者）が、乗組員8名（代表者を含む）を乗せたまま行方不明となり、災害発生当日、海上で1名、後日、海底に沈んでいた船内で1名、海中で4名、海上で2名が発見	70209	1～9

			され、それぞれ死亡が確認された。		
2008	4	3 ～ 4	湾内で養殖ホタテ貝を採取した漁船（5.1t、船長は事業場の代表者）が、乗組員8名（代表者を含む）を乗せたまま行方不明となり、災害発生当日、海上で1名、後日、海底に沈んでいた船内で1名、海中で4名、海上で2名が発見され、それぞれ死亡が確認された。	70209	1～9
2008	4	3 ～ 4	湾内で養殖ホタテ貝を採取した漁船（5.1t、船長は事業場の代表者）が、乗組員8名（代表者を含む）を乗せたまま行方不明となり、災害発生当日、海上で1名、後日、海底に沈んでいた船内で1名、海中で4名、海上で2名が発見され、それぞれ死亡が確認された。	70209	1～9
2008	4	3 ～ 4	湾内で養殖ホタテ貝を採取した漁船（5.1t、船長は事業場の代表者）が、乗組員8名（代表者を含む）を乗せたまま行方不明となり、災害発生当日、海上で1名、後日、海底に沈んでいた船内で1名、海中で4名、海上で2名が発見され、それぞれ死亡が確認された。	70209	1～9
2008	7	11 ～ 12	海上での事故の取材のため、操縦士を含む4名が搭乗してヘリコプターにて飛行中に海上で消息不明となった。なお、後日被災者の遺体が発見された。	40103	1～9
2008	7	11 ～ 12	海上での事故の取材のため、操縦士を含む4名が搭乗してヘリコプターにて飛行中に海上で消息不明となった。なお、後日被災者の遺体が発見された。	40103	1～9
2009	2	23 ～ 24	スケトウダラ刺網漁のため、被災者含め5人が漁船（9.7t）に乗っていた。沖合で揚網作業がほぼ終了したころ、船体が徐々に右舷側へ傾き、波を受けてそのまま転覆した。転覆直前に全員が海に飛び込み、4人は僚船に救助されたが、被災者は行方不明となった。	70201	1～9
2009	8	7 ～ 8	漁港内の浚渫作業のため、引船で起重機船を作業場所まで曳航し、起重機船を固定するため船外機船に係留ロープを渡したところ、船外機船が引船と起重機船の間に回り込み転覆、そのまま起重機船の下に潜り込んだ。船外機船に乗船していた2人のうち1人はすぐに海中より浮かび上がり救助されたものの被災者は浮かび上がらず、その後、海中を捜索していたダイバーにより起	30199	30～ 49



			重機船の船底から発見された。		
2009	7	10 ～ 11	沖合約1kmでシラス漁をしていた漁協所属の漁船（8.5t）が僚船と衝突した。本船に乗っていた被災者は僚船の舳先と本船のネットローラーとの間にはさまれた。	70201	1～9
2010	1	0 ～ 1	タラ刺し網漁船（9.7t）に船長（事業主）と乗組員2人が乗り込み沖合で操業中、僚船との無線交信を最後に連絡が途絶え、そのまま3名とも行方不明となったもの。その後、漁船が転覆しており、3名のうち2名が発見された。残る乗組員1名は未だ行方不明である。	70201	1～9
2010	1	0 ～ 1	タラ刺し網漁船（9.7t）に船長（事業主）と乗組員2人が乗り込み沖合で操業中、僚船との無線交信を最後に連絡が途絶え、そのまま3名とも行方不明となったもの。その後、漁船が転覆しており、3名のうち2名が発見された。残る乗組員1名は未だ行方不明である。	70201	1～9
2010	7	11 ～ 12	山中にて山岳遭難救助中、何らかの理由によりヘリコプターが墜落し、搭乗者2名が死亡したもの。なお、本件における死亡者は5名であり、うち3名は消防署隊員であったもの。運輸安全委員会にて調査中。	40103	50～ 99
2010	7	11 ～ 12	山中にて山岳遭難救助中、何らかの理由によりヘリコプターが墜落し、搭乗者2名が死亡したもの。なお、本件における死亡者は5名であり、うち3名は消防署隊員であったもの。運輸安全委員会にて調査中。	40103	50～ 99
2010	7	10 ～ 11	パイロット及びカメラマンの被災者2名は、航空写真撮影のため小型飛行機に乗り、目的地に向けて飛行中、レーダーから機影が消えて行方不明となった。2日後に山中に墜落しているのを発見され、2名は収容されたが病院で死亡が確認された。事故当時は濃霧注意報が発令されており、視界不良が一因である。	40103	300 ～ 499
2010	7	10 ～ 11	パイロット及びカメラマンの被災者2名は、航空写真撮影のため小型飛行機に乗り、目的地に向けて飛行中、レーダーから機影が消えて行方不明となった。2日後に山中に墜落しているのを発見され、2名は収容されたが病院で死亡が確認された。事故当時は濃霧注意報が発令されており、視界不良が一	120109	100 ～ 299

			因である。		
2010	9	7 ～ 8	登山道の歩道橋の橋脚補強工事で使用するための麻袋に入れた砕石材約2.4 tをワイヤーで吊し、ヘリコプターで輸送中、山林に墜落した。	40103	100 ～ 299
2010	9	7 ～ 8	被災者はヘリコプターで山中の橋の基礎部の補強工事に使う資材や機材の運搬の為、資材置き場と現場を往復していたが、現場に霧がかかっていたために資材を降ろさず、資材置き場に戻る途中に墜落したもの。災害発生時、資材（自然石、2.4 t）はワイヤーロープを用いてヘリコプターから吊り下げられていた。	40103	50～ 99
2010	12	11 ～ 12	9. 7 tのホタテ漁船が転覆し、乗っていた2名のうち1名が死亡、1名が行方不明となった。出漁してから約2時間後、「ホタテかごをスクリューに巻き込ませてしまった」と僚船に無線連絡があった。スクリューの回転力は強く、かごの網が絡まった程度であれば航行可能なものであるが、同船が帰港しないため僚船が様子を見に行ったところ、転覆している同船を発見したものである。災害発生当時、転覆の原因となるような風浪はなかったので、かごを巻き込んだ後に何らかの原因で船体のバランスを崩したと考えられる。	70201	1～9
2010	12	11 ～ 12	9. 7 tのホタテ漁船が転覆し、乗っていた2名のうち1名が死亡、1名が行方不明となった。出漁してから約2時間後、「ホタテかごをスクリューに巻き込ませてしまった」と僚船に無線連絡があった。スクリューの回転力は強く、かごの網が絡まった程度であれば航行可能なものであるが、同船が帰港しないため僚船が様子を見に行ったところ、転覆している同船を発見したものである。災害発生当時、転覆の原因となるような風浪はなかったので、かごを巻き込んだ後に何らかの原因で船体のバランスを崩したと考えられる。	70201	1～9
2011	7	9	被災者2名は学生2名と共に7月28日午前、訓練飛行のため、小型プロペラ機で空港を離陸したが同日午後1時55分ごろ、斜面に墜落しているのが発見されたもの。機内などから3名（被災者2名、学生1名）を収容した	120109	10～

		10	が、間もなく死亡が確認された。なお、もう1名の学生は同町内の林道で負傷した状態で保護されたもの。		29
2011	7	9 ~ 10	被災者2名は学生2名と共に7月28日午前、訓練飛行のため、小型プロペラ機で空港を離陸したが同日午後1時55分ごろ、斜面に墜落しているのが発見されたもの。機内などから3名（被災者2名、学生1名）を収容したが、間もなく死亡が確認された。なお、もう1名の学生は同町内の林道で負傷した状態で保護されたもの。	120109	10~ 29
2011	3	4 ~ 5	事業主及び被災者2名は、共に海老籠を仕掛けるため漁船（4.9トン）に乗船し漁港を出港した後、沖合の漁場へと航行させていたところ、漁船が転覆し行方不明となったもの。午前4時50分頃に、携帯電話により救助要請の連絡が入り、捜索が行われたものの、船体も含め発見には至らなかったもの。平成23年12月15日海上保安庁から死亡報告書の交付があったもの。	70201	1~9
2011	3	4 ~ 5	事業主及び被災者2名は、共に海老籠を仕掛けるため漁船（4.9トン）に乗船し漁港を出港した後、沖合の漁場へと航行させていたところ、漁船が転覆し行方不明となったもの。午前4時50分頃に、携帯電話により救助要請の連絡が入り、捜索が行われたものの、船体も含め発見には至らなかったもの。平成23年12月15日海上保安庁から死亡報告書の交付があったもの。	70201	
2011	10	12 ~ 13	災害発生当日被災者2名が乗ったヘリコプターは、山中の登山道整備工事で使用する資材輸送のため、飛行場を離陸し、山中に設けられた作業用ヘリポートに向かった。当日は、13個の資材を輸送する予定であり、10個目の資材の輸送を終え、作業用ヘリポートに帰投途中、機体後部に異変が生じ、機体のバランスが崩れまもなく墜落したもの	40103	50~ 99
2011	3	8 ~	シラス漁の解禁日であったことから、A丸およびB丸はそれぞれ僚船とともに午前6時頃よりシラス漁の漁場に向かった。午前7時15分C市D海岸の南沖合約2キロメートル地点で、網を広げるために左方向へUターンするよ	70201	1~9

		7	うに進路を変えたA丸と後方から航行してきたB丸が衝突した。B丸の乗組員2名が受傷、A丸は転覆し6名が海に投げ出された。		
2011	3	7	シラス漁の解禁日であったことから、A丸およびB丸はそれぞれ僚船とともに午前6時頃よりシラス漁の漁場に向かった。午前7時15分C市D海岸の南沖合約2キロメートル地点で、網を広げるために左方向へUターンするよ	70201	1～9
		7	うに進路を変えたA丸と後方から航行してきたB丸が衝突した。B丸の乗組員2名が受傷、A丸は転覆し6名が海に投げ出された。		
2011	11	9	傭船した船舶（曳船：19トン）に航路案内のため同乗していたところ、大波を受け転覆・沈没し、船長他1名の船員とともに海上に投げ出された。救	30111	10～29
		10	助されたが収容先の病院で死亡が確認された。同人に対する船員法の適用について、事務所宛照会中のところ、船員法の適用無し旨連絡があった。なお、船員1名についても死亡が確認された。		
2012	6	6	浚渫工事のため、浮きクレーン、押船、土運船、作業船の4隻をつないだ状態で岸壁を出港した。先ず、作業船（被災者と同僚の2名が乗船）を先行し	30111	30～49
		7	て現場に行かせたところ、土運船の右舷船首に接触し、沈没した。同僚は救助されたが、被災者は海に投げ出され、行方不明となり、数日後遺体で発見された。		
2013	4	15	接岸しているコンテナ船を離岸させるため、被災者他1名が乗り込んでいた作業船は、コンテナ船の船首に緊結されたロープを船尾のフックに緊結し、	50202	30～49
		16	曳航。コンテナ船の船首の向きを変えた後、フックからロープを外す予定であったが、ロープが張ってしまい外せなくなりそのままコンテナ船に引っ張られ転覆。操舵していた労働者は、海中で発見されたが死亡していた。		
2014	12	6	漁港を出港した際、南下してきた砂利運搬船と衝突し、転覆。被災者ら2名	70209	1～9
		7	が死亡した。		
2014	1	8	沖合で、2隻1組でシラス漁をしていた漁船（9.86t）の漁網を貨物船	70201	1～9
		9	のスクリューが巻き込み漁船が転覆。乗組員1名が死亡した。		

2015	3	10 ～ 11	発電所の配電撤去工事において、ヘリコプターにて撤去資材を運送する業務を行っていたところ、作業開始から発電所と荷卸し場を3往復した後、給油のためにヘリポートに向かう途中、高さ約300メートルの位置にあった送電線に接触して墜落、乗員2名が死亡したもの。	40103	30～ 49
2015	3	10 ～ 11	ヘリコプターを使用し資材の運搬を行い、当該資材の荷下ろし完了後、燃料補給のため場外離着陸場に移動を開始したところ、送電線に接触し墜落炎上した。	40103	30～ 49
2015	8	15 ～ 16	岬の約3、7 Km沖合で、底引き網漁中の漁船（13、47 t）と貨物船が衝突した。漁船は転覆し乗っていた2人のうち船長は救助されたが、乗組員が行方不明となっている。（平成27年8月30日に発見され、死亡が確認された。）	70201	1～9
2016	8	6 ～ 7	漁船（総トン数4.8 t）に船長と被災者の2名が乗船し、沖合でのシラス漁の操業中、漁船が高波を受けて転覆した。船長が海中に転落した被災者を救出したが、救急隊の到着時には既に心肺停止の状態であり、搬送先の病院で死亡が確認された。	70201	1～9
2017	12	8 ～ 9	被災者はウニ漁に従事中、漁船の機関が故障し潮流に流され座礁したため、被災者の指示により海面に浮上した潜水士を漁船の左舷側の甲板上において、他の労働者とともに救助作業を行っていた。波の影響で漁船が動揺したことにより海に落水し流され、近くの島の岸に流れ着いたが再び流され、僚船に救助されたものの低体温症により死亡した。なお、潜水士も救助され、漁船に引き上げられたが死亡した。	70201	1～9
2017	11	14 ～ 15	ヘリコプターによる建設資機材の運搬業務を終え、同機で移動する途中、何らかの原因で橋上に墜落し、機体が大破、炎上して死亡した。なお、当該被災者のほか搭乗していた操縦士1名、整備士2名も死亡した。	40103	50～ 99
2017	11	14 ～ 15	ヘリコプターによる建設資機材の運搬業務を終え、同機で移動する途中、何らかの原因で橋上に墜落し、機体が大破、炎上して死亡した。なお、当該被災者のほか搭乗していた操縦士1名、整備士2名も死亡した。	40103	50～ 99

2017	11	14 ～ 15	ヘリコプターによる建設資機材の運搬業務を終え、同機で移動する途中、何らかの原因で橋上に墜落し、機体が大破、炎上して死亡した。なお、当該被災者のほか搭乗していた操縦士1名、整備士2名も死亡した。	40103	50～ 99
2017	11	14 ～ 15	ヘリコプターによる建設資機材の運搬業務を終え、同機で移動する途中、何らかの原因で橋上に墜落し、機体が大破、炎上して死亡した。なお、当該被災者のほか搭乗していた操縦士1名、整備士2名も死亡した。	40103	10～ 29
2017	9	4 ～ 5	被災者は、沖において、かご上げ作業を終え、片付け作業中、被災者らの乗船していたタコかご漁船が、サンマ棒受け漁船に衝突され転覆し、労働者2名が海に投げ出され被災者が行方不明となり、もう1名の労働者は、軽傷を負った。	70201	1～9
2017	6	14 ～ 15	被災者は、小型飛行機（機体は当該事業場が所有）に、教官（アドバイザー）兼コパイロットとして搭乗していた。同飛行機には、被災者、操縦者（非労働者）、ほか2名（非労働者）の計4名が乗っていた。災害発生日、同飛行機がA空港からB空港まで飛行した後、B空港を離陸してA空港まで戻る際に、山中に墜落した。翌日、4名の死亡が確認された。	40103	1～9
2018	8	10 ～ 11	県境で開通予定の登山道視察のため、計9名がヘリコプターに搭乗して飛行中、何らかの原因で山中に墜落したもの。	40103	1～9
2018	8	10 ～ 11	県境で開通予定の登山道視察のため、計9名がヘリコプターに搭乗して飛行中、何らかの原因で山中に墜落したもの。	40103	1～9
2019	12	14 ～ 16	河口の台風で崩れた人工リーフを撤去する工事において、当日の作業が完了。作業船（クレーン台船）に曳航されていた、被災者の操船する船舶は、港に戻る途中転覆。被災者はダイバーによって船室から救助され、病院に搬送されたが、同日に死亡。	30107	10～ 29
2019	10	8 ～	沖において船上で定置網の錨（約500キログラム）を右舷と左舷で2つ同時に作成し投下する作業を行っていたところ、作成した錨を2つ同時に投下する工程で右舷の錨が海に落ちなかったため、船のバランスが崩れ転覆し、	70201	1～9

		10	被災者は海に投げ出された。その後すぐに救助されたが、心肺停止状態であり、搬送された病院で死亡が確認された。		
2020	8	20 ～ 22	漁師補助として被災者が乗船した船（1トン、全長6.2m、幅1.9m、高さ0.72m）が東進する中、同船の右舷後部に北進してきた別の船（4.2トン）の船首が激突した。被災者の乗船位置に別の船の船首が激突したために、被災者が同船の船首に激突され、頭部・胸部等を損傷、外傷性ショックにて死亡した。被災者は、1週間後に約300m沖で発見され、死亡確認された。	70201	1～9
2020	4	8 ～ 10	生物調査のため、被災者は取水堰の中央部に位置する堰に手漕ぎボートで向かっていたところ、ボートが堰の吐水箇所転覆した。川に落ちた被災者は流れに逆らいながら堰柱に向かっていたところ、吐水箇所留まっていたボートが被災者に向かって流れ、被災者に激突した。被災者は下流に向かって流され、同じく調査をしていた労働者により救助された。救急搬送後、病院で死亡が確認された。	120109	1～9
2020	3	22 ～ 24	被災者は、漁船の投籠のために他の乗組員とともに乗船し、漁場へと向かっていた。漁場へと近づいたため、他の乗組員は乗船していた漁船の看板に集合したところ、被災者の姿がなく行方不明となった。その後、沖にて身元不明の遺体が発見され、DNA鑑定の結果、当該遺体は被災者であると断定された。	70201	1～9

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pgm/SHISYO\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx)(職場のあんぜんサイト)

Return to：[https://www.jisha.or.jp/international/topics/202207\\_01.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202207_01.html)